

消化器外科 I ・ 麻酔科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名]

開腹肝臓切除術における腰方形筋ブロックの有用性に関する後ろ向き観察研究

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 寶金 清博

[研究責任者名・所属] 田中 暢洋 （麻酔科・助教）

[研究の目的] 肝細胞癌やエキノコックス症において開腹手術で肝臓切除をするときは全身麻酔に加え、硬膜外麻酔を併用することが一般的です。しかし、血液検査で凝固能（血が固まる能力）が低下している症例では硬膜外麻酔をすることができず、手術後の痛みの管理が難しくなります。近年、超音波ガイド下で腰方形筋ブロックで上腹部まで鎮痛できる可能性が論じられており、今回過去に肝臓切除手術で硬膜外麻酔が施行できなかった患者さんの中で、腰方形筋ブロックを受けた患者さんと、受けずに全身麻酔だけで管理された患者さんの手術後に使用された鎮痛薬の量や要求回数を比較し、腰方形筋ブロックの有用性について研究したいと考えております。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

平成 28 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までに開腹手術で肝臓切除術を受けた方のうち、全身麻酔単独で受けた方、もしくは腰方形筋ブロック(QLB)を併用した全身麻酔を施行された方

●利用するカルテ情報

- ①基本情報：年齢、身長、体重、性別
- ②疾患情報：疾患名、手術名、治療内容、合併症
- ③手術・麻酔記録からの情報：麻酔時間、手術時間、術式、麻酔法、使用した薬物とその総投与量
- ④血液検査結果：末梢血(ヘモグロビン濃度、血小板数)、凝固系 (PT-INR、APTT)
- ⑤カルテからの情報：術後の経過、術後の麻薬使用量、非麻薬性鎮痛薬使用量、痛みスケールの値、鎮痛剤や制吐剤の要求回数

[研究実施期間] 実施許可日～2019年8月31日

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北14条西5丁目
北海道大学病院麻酔科 担当医師 田中 暢洋
電話 011-716-1161(内線5982) FAX 011-706-7861